

兵庫県立 人と自然の博物館研修 中高一貫コース1年生

2014年5月22日 発行

日程:平成26年4月25日(金) 場所:兵庫県立 人と自然の博物館

昨年度、希望生徒対象で実施した「兵庫県立人と自然の博物館」研修を、中高一貫コース高校1年生全員を対象に実施した。

- 博物館到着後、私たちはまず兵庫県立大学自然・環境科学研究所 自然環境系 系統分類研究部門橋本佳明准教授による「アリ類等の系統分類学的研究と熱帯雨林生物における多様性に関する研究」と「バイオミクリー～生物模倣技術～」のセミナーを受講した。
- 橋本佳明准教授は、日本から東南アジアまで、アリ類を中心に調査を行い、生物多様性の解明とその保全に関する研究を行っている。それらの研究成果の概要を振り返りながら、生物の真似をして、最先端の科学技術やデザインを開発するバイオミクリーについての説明を受けた。地球の歴史・生物の進化の歴史から自然は新技術の宝庫であり、様々な科学技術やデザインを創造するためには、生物の体の仕組みや由来を研究することはとても有効であり、真の生物模倣技術とは、生物の形態だけの模倣ではなく生物の存在する生態系そのものを模写すること、そのためにも生物多様性を維持することが重要であることを学んだ。
- セミナー受講後、博物館内の展示見学を行った。人類誕生までの生物の歴史を大型の恐竜化石など多くの化石標本でたどりながら学ぶと共に、自然と人との関わりあいについての様々な標本や資料を観察し、兵庫の自然・生物多様性を学んだ。生徒らはとても熱心に見学しており、今後もこのような機会をいかして生徒の科学的探究心の向上に努めたい。



図1 「アリ類等の研究と多様性に関する研究」と「バイオミクリー」のセミナーについて話された。(兵庫県立大学橋本先生)



図2 人類誕生までの生物の歴史を多くの興味深い化石標本でたどりながら学んだ



図3 兵庫県立人と自然の博物館前にて

生徒の感想

- バイオミクリーの話聞いて身近なものにも使われていることがわかった。
- 虫や動物の標本をじっくりみられたので細かいところまでみられてよかった。
- 働きアリは自分たちでクーラーやヒーターを使わず巣の構造を変えて温度を保つようにしているところに感心した。